

2015年2月22日（日）午後、産経新聞社・千葉総局様が、当会に取材にいらしてくださいました。

<http://www.sankei.com/region/news/150223/rgn1502230023-n1.html>

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20150223-00000014-san-l12>

猫のお世話スタッフリーダーが対応し、施設や保護活動について質問にお答えしました。

1. 保護活動の実態について

- 大人の猫を里子に出してやりたいが、子猫に比べると引き取り手が少なく、里親様を見つけることがとても難しい。
- これ以上の飼育環境の悪化を避けるため、現在は新規の猫の保護（引き取り・預かり）は一時中止している。

2. 経営について

- 主に寄附金と、入館料収入で運営している。経営は大変厳しい。
- シェルター運営ということで、どうしても飼育のための人件費がかかるが、猫大好きな、心ある方が休日にボランティアで猫のお世話や事務作業を手伝いに来てくださるので、助けられている。
- 100匹以上の猫と12頭の犬のお世話をする常勤スタッフは現在3名。



当日は、62名ものご来館者様がお越しくださいり、取材に応じてくださる方もいらっしゃいました。皆様、ありがとうございました。



産経新聞社様に取り上げていただき、猫の保護活動と、シェルター運営の厳しさを、世の中に広くご理解いただき、大変良い機会となりました

今回のことをきっかけに、当会に長くいる猫達が里子に行けるチャンスをつかむことができれば、また、病気、高齢、人を恐れているがために里子に行けない猫達が、当会で安心して猫生をまっとうできるよう養い親様になってくださる方が一人でも増えてくださったら...と思います。